

要 望 書

南九州地域の拠点港湾「八代港」の
整備促進について
～地域経済の活性化のために～



令和6年9月28日
台湾・新竹市との友好交流協定締結式の様子



令和7年4月24日
くまモンポート八代に初寄港するダイヤモンド・プリンセスの様子

令和7年7月
熊本県八代市
八代港整備・活用促進期成会

八代港の整備につきましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

港湾は、我が国の経済や国民生活を支える極めて重要な社会基盤であり、豊かで活力ある地域経済の発展には地方港湾の成長が欠かせません。

現在の八代港は、韓国と台湾への国際コンテナ定期航路や神戸への国際フェリー航路を有し、アジアをはじめとした世界各国へ接続する南九州の貿易拠点として着実な発展を遂げています。

昨今、トラックドライバー不足やBCP対策重視により地方港の利用が高まりつつあるなかで、本市は九州の中央に位置し、九州各県と繋がる交通網も充実していることから、八代港の活用は「物流の2024年問題」、「カーボンニュートラルの実現」といった社会課題の解決にも寄与することが期待されています。

八代港は半導体の製造に不可欠な高圧ガスや化学品など危険物の取り扱いが南九州で唯一可能な港であることから、令和6年12月に稼働したJASM熊本工場で使用される半導体原料の輸入が本格化しています。今後も半導体原料の輸入港として重要な役割を担うことが期待されることに加え、近年の原木取扱量は毎年過去最高を記録するなど、全国有数の木材輸出拠点としても成長を続けています。

こうした中で、加賀島地区には港湾計画において水深12m岸壁が位置づけられており、製材輸出の声も上がるなか、点在する原木ヤードの集約により港湾労働者の人手不足解消に向け水深12m岸壁の整備が期待されています。つきましては、将来見込まれる新たな貨物需要と企業立地需要への対応を図るためにも、新規事業化に向けてご支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、海上物流の要となる八代港は、未だ大型船舶入港時の喫水調整を要するなど余分な輸送コストが発生していることから、八代港の利便性を向上させ、今後更なる利用拡大に繋げるためにも、水深14m航路の早期完成にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年3月に公表された国資料によれば、八代港の経済波及効果は年間約2千2百億円に上り、その半分が八代市内にもたらされていると推計されています。これまでの八代港の機能強化が、地域の雇用や経済に大きな影響を与えていることが示されました。

ついては、地域経済の成長、それに伴う雇用の創出、熊本県全体の発展に欠くことのできない八代港の整備促進につきまして、下記のとおりご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 一、加賀島地区への水深12m岸壁の新規事業化を図ること。
- 一、水深14m航路の早期完成を図ること。

令和7年7月

八代市長 **中村博生**

八代港整備・活用促進期成会長 **松本喜一**